

ごみ減量化に向けた町の対応策は

町長…町民との連携を強め推進します



青木 久子 議員



課題のごみ減量化

ごみ処理にかける経費が増加しており、大切な税金が費やされている。経済不振のなかで町民の負担を減らすためにもごみ減量化に向けた町の積極的対応を求める。

ごみ減量の推進実態として資源回収推進事業の進捗状況はどうか。町長 各小学校で取り組んでリサイクル推進に力を発揮して頂いています。

燃えるごみの家庭用生ごみの減量対策について畑に埋め戻す方策や農業関係と連動した堆肥作りの考えはないか。町長 生ごみは燃やせるごみの約半分を占め、水分を相当含んでおり、焼却処理において水分を蒸発させるために大きなエネルギーを要します。電気式生ごみ処理機への助成制度を取り入れ対応しています。



普及は？電気生ごみ処理機

町地区衛生組合組織連合会への助成の効果は。町長 全地区の区長と連携しながら、不法投棄巡回監視・撤去作業、廃バッテリー・タイヤ回収、電動式生ごみ処理機購入助成事業、マイバッグ推進運動、衛生ステーション設置事業助成、クリーンアップ大石田などの事業に取り組んでいます。

今後のごみ減量のPR促進をどう進める。町長 町広報紙を活用し、現在も継続してPRに努めています。



横山地区流雪溝の工事始まる

現在、横山本郷、来迎寺地区の流雪溝整備工事が平成19年度から着手していますが、進捗状況はどうなっているのか。町長 国が直轄事業として最上川から用水を直接取水する「消流雪用水導入事業」として県道の整備から進めており、平成19年度に工事に着手し、平成20年度に完成する予定です。町道の整備は平成20年度から着手し、平成21年度の冬から完成した区間から供用開始をしていきます。

流雪溝整備が進まない田沢、里、今宿地区は具体的にどう進めるのか。町長 具体的な年次計画は、残念ながらできていない現実です。横山、田沢地区の全体的な基本計画は策定していますので、今宿を含め県に地域の実態を理解してもらい、具体化するよう強気に働きかけていきます。

公共下水道整備は。小菅浄化センターは平成21年3月に廃止の計画になっています。地域、住民への説明と、跡地の利用については早急に示すべきではないか。町長 小菅地区に暫定的な処理場として建設を開始して3月から供用を開始してきました。平成20年度中に、村山浄化センターに接続が可能となり、一部補助金返還等が生じてきますが、廃止した方が有利との結論に達し、廃止する方向で進んでいます。できるだけ早い時期に地域説明会を開きたいと思っています。

緑環境税がどう使われているのか。当町は自然豊かな森林に囲まれています。荒廃が進んでいる森林を整備する目的で、平成19年度から補助を受け、当町ではどのように整備したのか。今後の計画は。町長 19年度は景観の保全を目的に「虹ヶ丘の景観を守る会」と連携し、間伐、枝打ちと「ポイ捨て禁止看板」の設置をし、川前地区のヒメギ



役目を終える小菅フレックス



関 幸悦 議員

町の流雪溝整備の現状は

町長：…早期に事業化が図られるよう努力します

フチョウ生息環境保全を目的に下刈り、枝打ちを実施しました。荒廃民有林の整備は、主にマツクイムシの被害木伐採を、今宿地内7・6haを行っています。新年度におきましては同様に11ha整備する予定です。